

令和6年3月15日
(学)トヨタ学園理事長 増田義彦

豊田工業大学 令和5年度卒業生のみなさんへ

豊田工業大学の学部を卒業された皆さん、大学院の修士課程を修了された皆さん、また、博士課程を修了された皆さん、課程博士号を授与された方、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今日、晴れの日を迎えることができたのは、皆さん一人一人の努力の賜物です。心からの敬意を表したいと思えます。

また、ここまで来られたのは、多くの方々の支えがあつてのことです。皆さんの学生生活を振り返れば、ご指導いただいた先生方や大学事務の方々、諸先輩、友人、後輩、さらに、ご理解とご支援をいただいた派遣企業の皆様、そして見守り続けていただいた保護者の皆様など、実に多くの方々に支えられてきたことが実感できると思えます。感謝の気持ちを大切にしていきたいと思えます。

本日ここに卒業、修了された皆さんは、新型コロナウイルス対策の真ただ中で学生生活でした。そのような不自由な環境を乗り越えて卒業論文、修士論文、博士論文をまとめられ、本日、学位が授与されています。そのたくましい活躍に、改めてお祝いを申し上げたいと思えます。

この会場名は、豊田喜一郎記念ホールとなっています。豊田喜一郎氏は、86年前に国産の自動車事業を興しましたが、事業の推進にあたって人材こそが産業を支える本質と理解されており、事業が発展した折には、自ら大学を設立し社会・産業を支える人材を育てたいとの強い想いを抱いていました。その想いをトヨタ自動車の社会貢献活動として43年前に実現したのが豊田工業大学です。したがって、豊田喜一郎氏の名を冠したこの記念ホールは、本日の式典に大変ふさわしい会場だと思います。

さて、大変革の時代を迎えているとよく言われます。また、日本は少子化により目に見えて生産年齢人口が減少しており、社会活動のために必要な人材の確保が喫緊の課題になっています。現在のように大きく変化している社会では、過去の成功体験の方法論は頼りになりません。

これから時代では、ひとりひとりが「人間として果たせる能力を向上させること」が従来以上に重要になってきます。つまり、何が社会に役立つことなのか、何が価値あることなのか、また、手に入れた情報は正しいものなのかなど、自分で考え判断する力が求められています。

先週、今週と定年となる先生方の最終講義がありました。聴講された方もみえると思います。その最終講義で、先生方がご自身の経験の凝縮された人生訓を、贈る言葉として、しっかりと語られていたことに私は感銘を受けました。卒業される皆さんが、本学で先生方と共に歩んで体得されたことは、間違いなく、新しい時代を創る担い手としての強力な原動力、パワーとなります。

時流に先んじようという「志」を強く持って、皆さんには新しい環境へ大きく羽ばたいて行って欲しいとは思いますが、お願いしたいことがあります。それは、「人生を急がないでいただきたい」ということです。皆さんは、まちがいなく70歳まで現役で活躍する世代です。自分の想いや夢に向かっていく時間は、まだ十分にあります。世間の風評や他人の言葉で煽られて、焦った気持ちにならないよう気を付けてください。

人と人とのかかわりを大切にし、また、深い思考を大切にして、地道に、「自ら学び、考え、判断する力の切磋琢磨」を続けていけば、必ず、高みに向かって、前進している自分に気づく時がきます。ぜひ、「自ら学び、考え、判断する力の切磋琢磨」を継続してください。

さて、本学の卒業生は既に3200人を超えています。本学では、皆さんが育った学び舎として、卒業生の方々を支援するために同窓会活動や卒業生の参加できるイベントなどの充実を進めています。折に触れ、豊田工大のホームページにアクセスして同窓会や本学の様子を覗いてみてください。

最後になりますが、何事についても皆さんの体と心の健康がその基盤です。いろいろな困難や苦難に対処するときも健康第一をモットーとして乗り切ってください。そのためには、逃げの一手も、ときには必要なことだと思っています。

卒業生のみなさんが、それぞれの立場で活躍して戴くことを祈念して、私からの
お祝いのメッセージと致します。

本日は、おめでとうございます。